

# 温泉分析書

(神奈川温研 第1437号)

## 1. 申請者

住所 神奈川県南足柄市中沼 305 番地 1  
氏名 株式会社足柄グリーンサービス 代表取締役会長 桜井孝一

## 2. 源泉名

南足柄温泉 (源泉名:あしがらの温泉(美肌の湯))  
台帳番号 足柄上 第14号

## 3. 湧出、揚湯地

神奈川県南足柄市広町字平石通 1524-1

## 4. 湧出、揚湯地における調査及び試験成績

現地試験日時	平成19年7月24日10時15分		
泉温	29.5	気温	27.0
揚湯量	57. l/min	湧出形態	動力揚湯
動力	18.5kW、グルンドフォスポンプ(株)製 SP8A-110型水中ポンプ 使用		
掘削深度	1500. m	海拔標高	230. m
静水位	288. m(地表面基準)	水位測定日	平成19年6月10日
知覚的試験	無色透明微硫化水素臭微鉛油臭 pH9.5		

## 5. 試験室における試験成績

知覚的試験	無色透明微硫化水素臭微鉛油臭	pH	9.30
密度	0.9974 g/cm <sup>3</sup> (26.3 )	導電率	0.710 × 10 <sup>2</sup> mS/m(25 )
		蒸発残留物	0.584 g/kg(110 乾燥)

## 6. 試料1kg中成分、分量及び組成

成分総計 0.476 g/kg

陽イオン	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
リチウムイオン (Li <sup>+</sup> )	0.00		
ナトリウムイオン (Na <sup>+</sup> )	130.00	5.66	85.24
カリウムイオン (K <sup>+</sup> )	0.36	0.02	0.30
マグネシウムイオン (Mg <sup>2+</sup> )	0.01	0.00	
カルシウムイオン (Ca <sup>2+</sup> )	18.7	0.93	14.01
ストロンチウムイオン (Sr <sup>2+</sup> )	0.00		
第一鉄イオン (Fe <sup>2+</sup> )	0.11	0.00	
アルミニウムイオン (Al <sup>3+</sup> )	0.23	0.03	0.45
マンガンイオン (Mn <sup>2+</sup> )	0.01	0.00	
亜鉛イオン (Zn <sup>2+</sup> )	0.00		
陽イオン計	150.00	6.64	100.00

陰イオン		ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
水酸イオン	(OH <sup>-</sup> )	0.54	0.33	0.46
フッ素イオン	(F <sup>-</sup> )	0.44	0.02	0.31
塩素イオン	(Cl <sup>-</sup> )	128.00	3.61	55.28
臭素イオン	(Br <sup>-</sup> )	0.33	0.00	
硫化水素イオン	(HS <sup>-</sup> )	2.68	0.08	1.22
硫酸イオン	(SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> )	70.6	1.47	22.51
炭酸水素イオン	(HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup> )	36.4	0.60	9.19
炭酸イオン	(CO <sub>3</sub> <sup>2-</sup> )	8.30	0.29	4.44
硝酸イオン	(NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> )	0.00		
メタケイ酸イオン	(HSiO <sub>3</sub> <sup>-</sup> )	28.4	0.37	5.67
メタケイ酸IIイオン	(SiO <sub>3</sub> <sup>2-</sup> )	0.15	0.00	
メタホウ酸イオン	(BO <sub>2</sub> <sup>-</sup> )	2.48	0.06	0.92
陰イオン計		279.00	6.53	100.00

遊離成分		ミリグラム	ミリモル
メタケイ酸	(H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub> )	45.6	0.58
メタホウ酸	(HBO <sub>2</sub> )	1.28	0.03
遊離硫化水素	(H <sub>2</sub> S)	0.01	0.00
遊離成分計		46.9	0.61

微量成分		ミリグラム	ミリモル
銅イオン	(Cu <sup>2+</sup> )	0.00	
鉛イオン	(Pb <sup>2+</sup> )	0.00	
カドミウムイオン	(Cd <sup>2+</sup> )	0.00	
総ヒ素	(As)	0.003	0.000
総水銀	(Hg)	0.00	
微量成分計		0.00	0.00

## 7. 泉質

単純硫黄泉(硫化水素型)(旧泉質名 単純硫化水素泉)  
アルカリ性 低張性 低温泉

## 8. 禁忌症、適応症等

温泉分析書別表に記載

## 9. 調査及び試験者

神奈川県温泉地学研究所 技術吏員 菊川城司、代田寧

## 10. 登録分析機関の名称及び登録番号

神奈川県温泉地学研究所、神奈川県知事登録第1号  
平成19年 8月24日

神奈川県小田原市入生田586  
神奈川県温泉地学研究所長  
本 多 久 男

# 温泉分析書別表

(神奈川温研 第1437号)

## 1. 源泉名

南足柄温泉(源泉名:あしがらの温泉(美肌の湯))

台帳番号 足柄上 第14号

## 2. 湧出、揚湯地

神奈川県南足柄市広町字平石通1524 - 1

## 3. 温泉分析申請者

住所 神奈川県南足柄市中沼305番地1

氏名 株式会社足柄グリーンサービス 代表取締役会長 桜井孝一

## 4. 泉質

単純硫黄泉(硫化水素型) (旧泉質名 単純硫化水素泉)

アルカリ性 低張性 低温泉

## 5. 泉質療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりです

(飲用については、さらに細菌検査等が必要です)。

### (1) 禁忌症、適応症

温泉の医治効用は、その温度その他の物理的因子、化学的成分、温泉地の地勢、気候、利用者の生活状態の変化その他諸般の総合作用に対する生体反応によるもので、温泉の成分のみによって各温泉の効用を確定することは困難であるが、当温泉の禁忌症、適応症はおおむね次のとおりです。

ア 一般的禁忌症	(浴用)	急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性の腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(とくに初期と末期)
イ 泉質別禁忌症	(浴用) (飲用)	皮膚、粘膜の過敏な人特に光線過敏症の人、高齢者の皮膚乾燥症 下痢の時
ウ 一般的適応症	(浴用)	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進
エ 泉質別適応症	(浴用) (飲用)	慢性皮膚病、慢性婦人病、きりきず、糖尿病、高血圧症、動脈硬化症 糖尿病、通風、便秘

### (2) 浴用、飲用の一般的注意事項

温泉には老化現象が認められ、地中から湧出した直後の新鮮な温泉が最も効果があるといわれているが、それぞれの泉質に適する用い方をしなければかえって疾病に不利に働く場合がある。したがって浴用又は飲用上の注意事項はおおむね次によることとし、特に飲用には新鮮な温泉を用いるとともに源泉及び飲泉施設について十分な公衆衛生上の配慮を行わせること。温泉の医治効用は、その温度その他の物理的因子、化学的成分、温泉地の地勢、気候、利用者の生活状態の変化その他諸般の総合作用に対する生体反応によるもので、温泉の成分のみによって各温泉の効用を確定することは困難であるが、当温泉の禁忌症、適応症はおおむね次のとおりです。

---

## ア 浴用上の注意事項

- (ア) 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当たり1回程度とすること。  
その後は1日当たり2回ないし3回までとすること。
- (イ) 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。
- (ウ) 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯さわりまたは浴湯反応)が現れることがある。  
「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
- (エ) 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
  - a 入浴時間は入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
  - b 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
  - c 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない(湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい)。
  - d 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る
  - e 次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とする。  
高度の動脈硬化症 高血圧症 心臓病
  - f 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。
  - g 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。
  - h 飲酒しての入浴は特に注意する。

---

## イ 飲用上の注意事項

- (ア) 飲泉療養に際しては、温泉について専門的知識を有する医師の指導を受けることが望ましいこと。
- (イ) 温泉飲用の1回の量は一般に100ml ないし200ml 程度とし、その1日の量はおおむね200ml ないし1000ml までとすること。
- (ウ) 強塩泉、酸性泉、含アルミニウム泉及び含鉄泉はその泉質と濃度によって減量し、又は希釈して飲用すること。
- (エ) 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
  - a 一般には食前30分ないし1時間がよい
  - b 含鉄泉、放射能泉及びヒ素又はヨウ素を含有する温泉は食後飲用する。  
含鉄泉飲用の直後には茶、コーヒーなどを飲まない。
  - c 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けることが望ましい。

---

(注) この別表は、温泉法第14条による掲示に必要な参考資料となるものです。  
温泉の利用については、温泉法第13条による許可を受けなければなりません。